

# 社会福祉法人 不二健育会

## 舟渡ヘルパーステーション

小林 淑子（登録型ヘルパー）

**功 績** 舟渡地域包括担当ケース（独居・90代女性）へ通常どおり生活支援に入ったところ、インターホン、ノックを行っても応答がない状況。耳も遠く動作もゆっくりであるため暫くお待ちするも、返答がない状況であった。

いつもとは違うことに違和感を抱き、部屋内部を確認できる場所を探すと、玄関扉に小窓があるのを発見。地面に這いつくばり中を確認するとご利用者の足裏が見えた為、即緊急対応をおこなう。救急隊が2階ベランダより入室。意識はあったものの、急に大人数が目の前に現れたことで混乱してしまう。小林がゆっくりと声かけを行い、状況の説明と病院への必要持参品の保管場所を聞きながら対応。救急隊とも連携し、スムーズに救急搬送。大事に至ることはなかった。ベテランとしての判断、ご利用者への配慮が生命をつなぎとめることに繋がった功績。

**推 薦 者** 齋藤潤（訪問介護管理者）

**推 薦 理 由** 長年在宅生活を支えてきた訪問介護員だからこそ、ご利用者の些細な変化や違和感を感じることができます。何とかご利用者の安否を確認しなければならないと使命感を持った気持ちと行動は、普段気づくことのなかった「小窓」に気づくことができ、事なきを得ました。また、信頼をおいている訪問介護員だからこそ、ご本人が安心して任せて下さったのだと考えます。

今回のタイミングが合わなければ、独居における孤独死に繋がっていたかもしれません。普段と違うという観察眼、親身な対応による安心を提供できたこの事例は、理事長賞に値すると考え推薦させていただきます。

### 内 容

---

小林は勤続26年4か月のベテラン訪問介護員です。今回の舟渡地域包括支援センター介護予防ケースの方へは5年以上前から生活支援に入っており、ご利用者からの信頼も絶大でした。

当日も通常通り生活支援の為、ご自宅に訪問。ご本人高齢及び耳が遠い為、なかなかコミュニケーションが取りづらい部分ではありますが、ご自身の意思をしっかりとお伝え頂けます。インターホン及び扉をいつも通りノックするも返答はありませんでした。本来、ご利用者が不在の場合には30分待ちサービス提供責任者への連絡後帰苑するルールがありますが、この時小林は違和感を感じていました。何とか部屋内部を確認できる場所はないかと探すと、玄関扉に小窓があるのを発見。開けてみるとご利用者の足が見えており、必死で声を掛けるものの返答はない状況でした。

即サービス提供責任者へ状況連絡し、救急要請を依頼。救急隊到着まで、ご本人に声をかけ続けまし

た。救急隊及び消防隊が到着し、2階ベランダへ回り込み入室。室内で倒れている本人を発見。意識はあり搬送を進めるも、急に大人数が室内に入室してきたことで混乱されてします。病院行く旨を救急隊が伝えるも、見知らぬ人達に貴重品の場所を伝えたくないと混乱が続いてしまいました。

小林は間に入り、体調が悪いことや病院に行くためには持参しなければならないものがあると、ゆっくりご本人に合わせて対応すると、すんなりと貴重品などの場所を教えて下さりスムーズな搬送へ繋げることができました。幸い軽度の熱中症の診断であり、大事には至らず、容態が安定すれば退院できるとのことでした。親族である妹さんも一安心され、感謝のお言葉を頂いています。

ご本人より、前日の16時頃に動けなくなり倒れ、20時間以上もその状況であったと聞きました。週2回の訪問であるため、訪問のタイミングがもしずれてしまっていたら最悪の事態を招いていたかもしれません。本当に気づくことができ良かったと安堵するケースでした。